

愛知県基幹的広域防災拠点及び 豊山町臨空第2公園

事業進捗状況等説明会

愛知県 防災安全局 防災拠点推進室
豊山町 産業建設部 防災拠点推進室
建設課

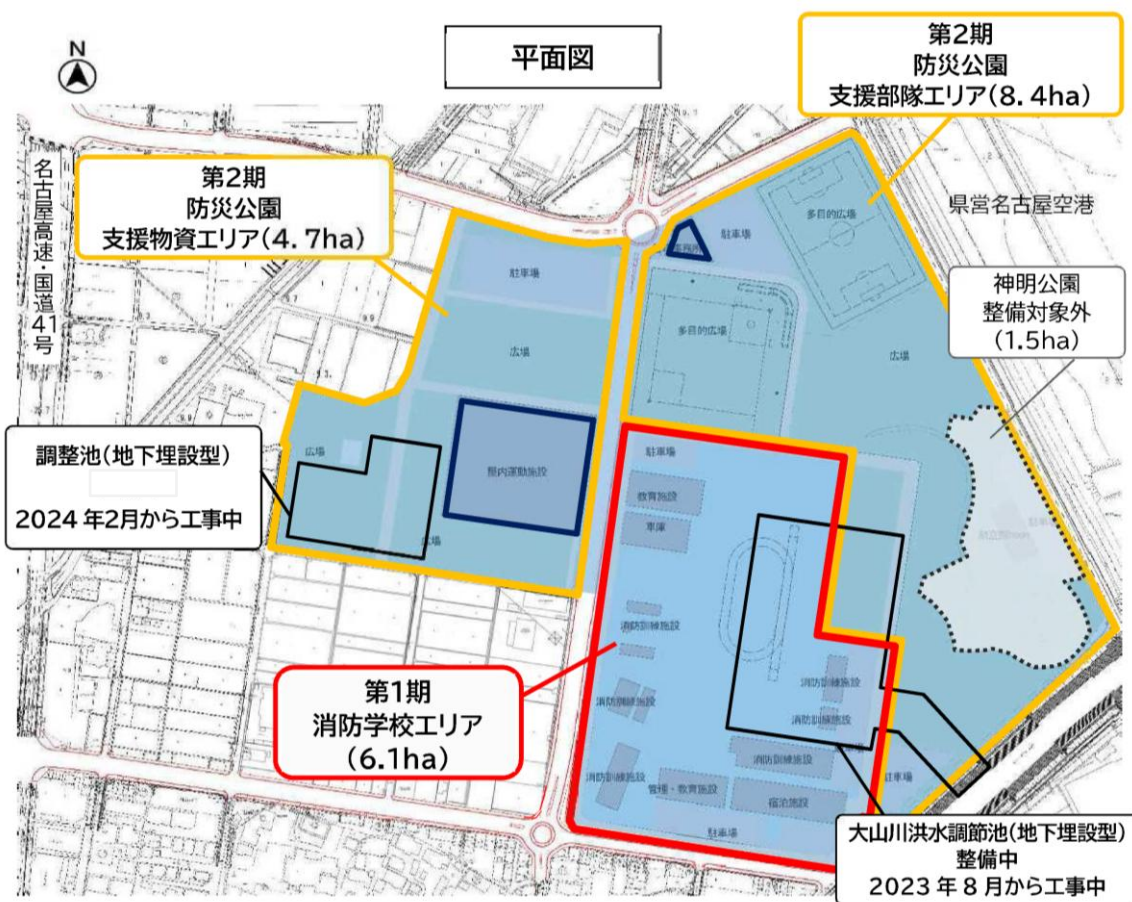
◆本日の説明内容

- 1 愛知県基幹的広域防災拠点事業の進捗状況について
- 2 豊山町臨空第2公園事業の進捗状況について

1 愛知県基幹的広域防災拠点 事業の進捗状況について

(愛知県防災安全局防災拠点推進室)

愛知県基幹的広域防災拠点事業の概要



➤ 第1期 【整備対象施設】

消防学校

敷地面積: 約6.1ha

赤枠のとおり

・拠点運用時に防災拠点の本部機能を担い、平常時には県内消防職員等の育成を担う施設

➤ 主な進捗

2025年 2月28日	入札公告
2025年 8月18日	入札・提案書受付
2025年 9月19日	落札者の決定(「あいち防災パートナー」グループ)
2025年 12月25日	特定事業契約の締結(あいち防災パートナー株式会社)

県基幹的広域防災拠点事業のスケジュール

項目/年度	~2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030~2049年度	
事業手法 (PFI事業)	第1期 消防学校	本契約★	設計・建設工事			★	開校(2029年度)	維持管理・運営(2029~2048年度)
	第2期 防災公園	本契約	★	設計・建設工事・開業準備		★	供用開始(2029年度内)	維持管理・運営(2029~2049年度)
敷地造成工事等	順次工事		造園・土木工事(県直接発注)		完成予定(2028年度内)	完成予定(2029年度上半期)		
埋蔵文化財調査	順次実施		※以降も文化財保護法に基づき必要に応じて調査					

約3年かけて設計建設を行い、
 第1期・消防学校は2028年度内完成
 第2期・防災公園は2029年度上半期完成
 を目指してまいります。

運用方針：全県一貫した教育訓練による県内消防力の強化、地域への施設の開放など開かれた消防学校として運営

整備イメージ ※ 整備イメージは、あいち防災パートナーからの事業提案に基づく現時点でのイメージであり、今後、変更される場合があります。

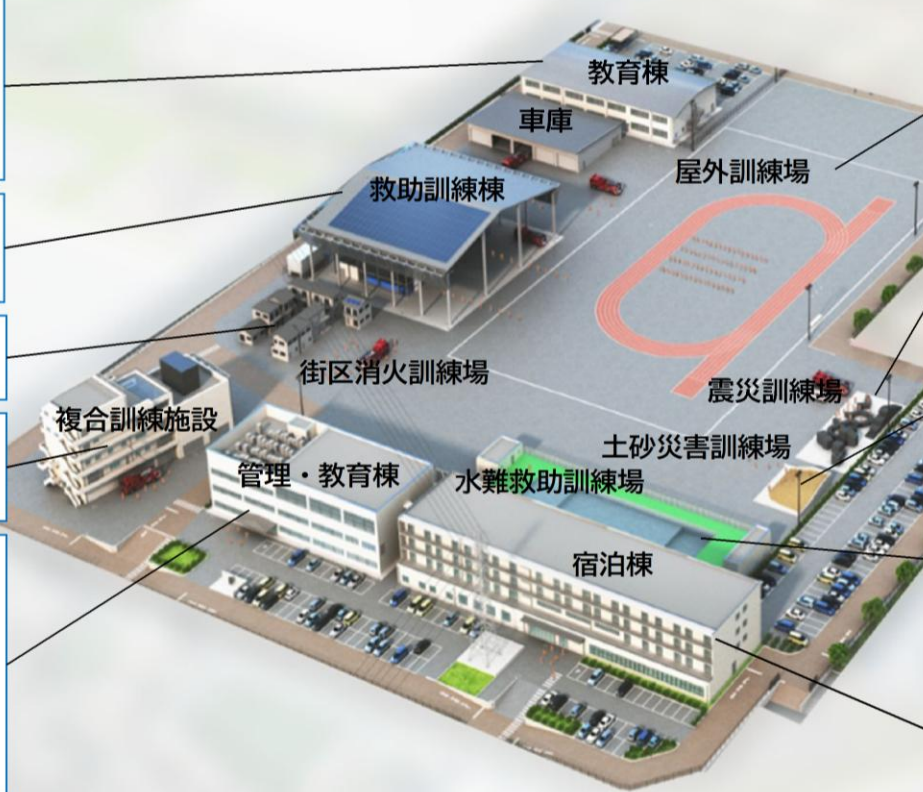
- 教育棟
 - ・防災・減災の普及、啓発及び人材育成を担う施設
 - ・県職員が常駐し防災啓発、防災ビジネス支援の拠点として運営
 - ・防災フェスタ、県総合防災訓練をはじめ、県民参加型の防災各イベントを定期的実施
 - ・小中学生などを対象とした防災普及啓発や近隣大型施設と連携した合同イベントなどを実施

- 救助訓練棟・雨天訓練設備
 - ・全国消防救助技術大会等の基準を満たした施設
 - ・救助訓練棟全体を覆う大屋根を設置し、雨天でも訓練可能とする（全国初）

- 街区消火訓練場
 - ・可動式模擬家屋9棟（住居・店舗等）を用いて様々な街区を想定した救出・消火訓練を実施

- 複合訓練施設
 - ・高層建築物での火災等を想定した消火、救出訓練を実施
 - ・実火災を再現し、高度な消火技術を錬成できる訓練を実施
 - ・煙の無害化処理設備を設置

- 管理・教育棟
 - ・初任科学生最大350人を収容可能な大教室、専科用講義、シミュレーション訓練で用いる中・小教室を配置



- 屋外訓練場
 - ・愛知県消防操法大会が実施できる仕様を満たした屋外訓練スペースの確保



- 震災訓練場
 - ・建築物が倒壊した現場を想定した被災者救出訓練機能の確保

- 土砂災害訓練場
 - ・土砂災害を想定した実技訓練、生き埋め検索訓練等の機能の確保

- 水難救助訓練場
 - ・河川、海岸からの救出を想定した訓練を実施
 - ・縦50m×横14m、6コースの訓練プール
 - ・水槽に1.2m、3m、5mの異なる水深を設ける
 - ・水中スピーカー、訓練用観察窓を設置
 - ・全国消防救助技術大会等の基準を達成

- 宿泊棟
 - ・学生350人の宿泊室を確保、収容人数の拡大にも対応
 - ・最大400人が食事可能なスペースを確保
 - ・談話室、トレーニングルーム、図書室を設置
 - ・季節や行事に応じたテーマ性のあるメニューを提供

【維持管理】
・不具合が発生する前に定期的なサイクルで交換等を行う予防保全を基本とした、合理的な点検・保守・修繕を実施

<拠点運用時の中核施設としての活用>

- ・管理・教育棟に、オペレーションルームを設置し、本拠点における各災害対応業務の統括を行う機能として活用
- ・管理・教育棟は免震構造とし、県災害対策本部の代替機能、各防災関係機関の活動スペースとして活用
- ・宿泊棟において、拠点で活動する要員（県本部機能、物流拠点、DMAT本部の各要員）350人の宿泊室を確保（廊下等を活用し、更なる要員の受入れを目指す）
- ・屋外訓練場を、消防応援部隊のベースキャンプとして活用
- ・教育棟を広域搬送拠点臨時医療施設（SCU）として活用し、早期に体制を確立
- ・1週間の電力を確保する自家発電機、2週間の飲料水・生活用水の確保、県独自の次世代高度情報通信、公衆無線LANを設置し、耐災害性を備えたライフラインを整備（拠点運用時の活用を想定した再生可能エネルギーを導入）

<拠点運用時イメージ>



屋外訓練場
(消防 ベースキャンプ)



教育棟
(SCU 活動スペース)



管理・教育棟

第1期・消防学校の整備内容

【教育棟】

- 防災・減災の普及、啓発及び人材育成を担う施設
- 県職員が常駐し防災啓発、防災ビジネス支援の拠点として運営
- 防災フェスタ、県総合防災訓練をはじめ、県民参加型の防災各イベントを定期的実施
- 小中学生などを対象とした防災普及啓発や近隣大型施設と連携した合同イベントなどを実施。



第1期・消防学校の整備内容

【救助訓練棟・雨天訓練設備】

- 全国消防救助技術大会等の基準を満たした施設
- 救助訓練棟全体を覆う大屋根を設置し、雨天でも訓練可能とする(全国初)



第1期・消防学校の整備内容

【街区消火訓練場】

- 可動式模擬家屋9棟(住居・店舗等)を用いて様々な街区を想定した救出・消火訓練を実施



第1期・消防学校の整備内容

【複合訓練施設】

- 高層建築物での火災等を想定した消火、救出訓練を実施
- 実火災を再現し、高度な消火技術を錬成できる訓練を実施
- 煙の無害化処理設備を設置



第1期・消防学校の整備内容

【管理・教育棟】

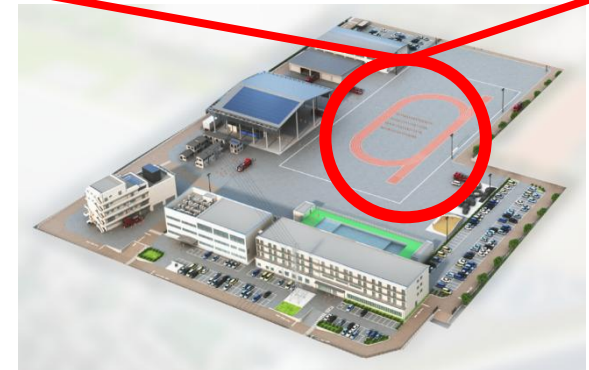
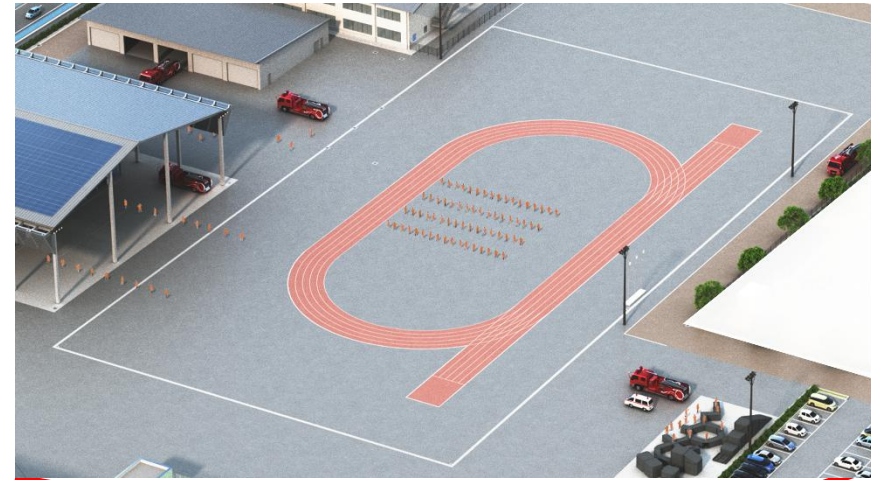
- 初任科学生最大350人を収容可能な大教室、専科用講義、シミュレーション訓練で用いる中・小教室を配置



第1期・消防学校の整備内容

【屋外訓練場】

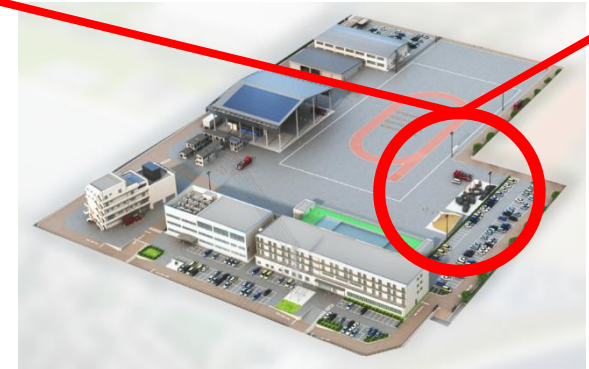
- 愛知県消防操法大会が実施できる仕様を満たした屋外訓練スペースの確保



第1期・消防学校の整備内容

【震災訓練場】

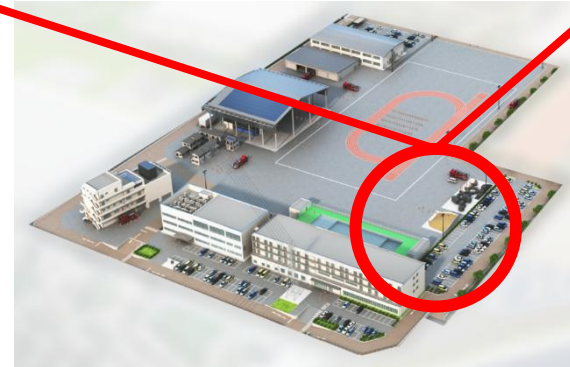
- 建築物が倒壊した現場を想定した被災者救出訓練機能の確保



第1期・消防学校の整備内容

【土砂災害訓練場】

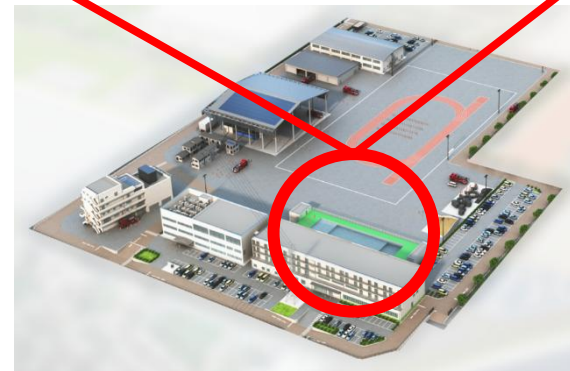
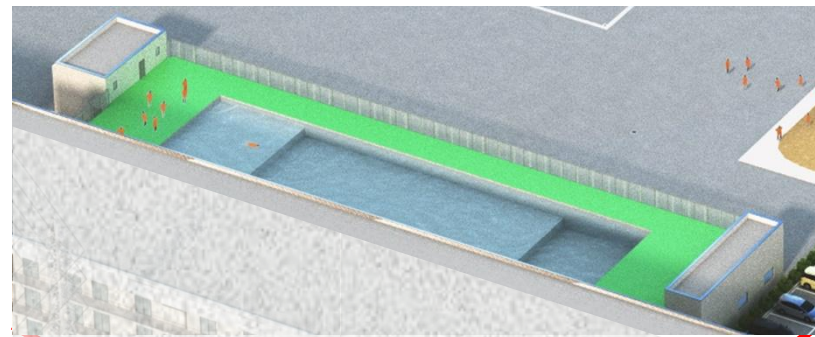
- 土砂災害を想定した実技訓練、生き埋め検索訓練等の機能の確保



第1期・消防学校の整備内容

【水難救助訓練場】

- 河川、海岸からの救出を想定した訓練を実施
- 縦50m×横14m、6コースの訓練プール
- 水槽に1.2m、3m、5mの異なる水深を設ける
- 水中スピーカー、訓練用観察窓を設置
- 全国消防救助技術大会等の基準を達成



第1期・消防学校の整備内容

【宿泊棟】

- 学生350人の宿泊室を確保、
収容人数の拡大にも対応
- 最大400人が食事可能なスペースを確保
- 談話室、トレーニングルーム
、図書室を設置
- 季節や行事に応じたテーマ
性のあるメニューを提供



拠点運用時の中核施設としての活用

【管理・教育棟】

- オペレーションルームを設置し、本拠点における各災害対応業務の統括を行う機能として活用
- 免震構造とし、県災害対策本部の代替機能、各防災関係機関の活動スペースとして活用

【教育棟】

- 広域搬送拠点臨時医療施設（SCU）として活用し、早期に体制を確立



管理・教育棟



教育棟（SCU活動スペース）

拠点運用時の中核施設としての活用

【屋外訓練場】

- 消防応援部隊のベースキャンプとして活用

【宿泊棟】

- 拠点で活動する要員（県本部機能、物流拠点、DMAT本部の各要員）350人の宿泊室を確保（廊下等を活用し、更なる要員の受入れを目指す）



屋外訓練場
（消防ベースキャンプ）

【その他】

- 大規模災害時に、ライフラインが途絶した場合でも、活動要員のための電気・水道・通信等が確保できるよう整備

運用方針：賑わいの創出により地域を活性化するとともに、基幹的広域防災拠点機能を有する防災公園として運用

整備イメージ ※ 県が要求水準書で示している内容をイメージ化したものであり、全体のパース、各施設の外觀デザインや詳細な仕様は、PFI事業者による提案に基づき協議・決定する。

●舗装広場

- ・テニス、バスケット等に利用

【災害時】

- ・物資の仮置き場や輸送トラックの待機場所



【写真：東京都しながわ中央公園】

●屋内運動施設

- ・インドアテニス等が可能な施設
- ・天候を問わず運動や防災のイベントに活用可能

【災害時】

- ・県内全域の物資をカバーし、雨天時に物資の集積に対応可能、屋内外でフォークリフトが円滑に走行可能な広域物資輸送拠点
- ・備蓄食料等を保管する備蓄倉庫



【写真：岩手産業文化センター（ツガワ未来館アピオ）】

●人工芝広場

- ・アウトドアフィットネスなどの健康づくり・癒しの場
- ・防災イベント等の屋外イベント

【災害時】

- ・物資の仮置き場や輸送トラックの待機場所などとして活用



【写真：静岡県浜名湖ガーデンパーク】

支援物資エリア
(4.7ha)

支援部隊エリア
(8.4ha)

●多目的広場①②

- ・サッカー、野球場等

【災害時】

- ・救出・救助部隊ベースキャンプ機能



【写真：大阪府服部緑地】

●芝生広場

- ・多目的広場①②と連携してアップフィールドとしての活用
- ・公園に訪れたファミリー層の多様なレクリエーションの受け皿

【災害時】

- ・救出・救助部隊ベースキャンプ機能



【写真：静岡県藤枝総合運動公園】

●神明公園

- ・デイキャンプ
- ・サバイバルキャンプ等の防災イベント
- ※現況の機能（プレイルット、健康器具、駐車場等）を代替。

【災害時】

- ・救出・救助部隊、TEC-FORCEのベースキャンプ



【写真：神明公園】



用地の管理(今年度の実績)

草刈り

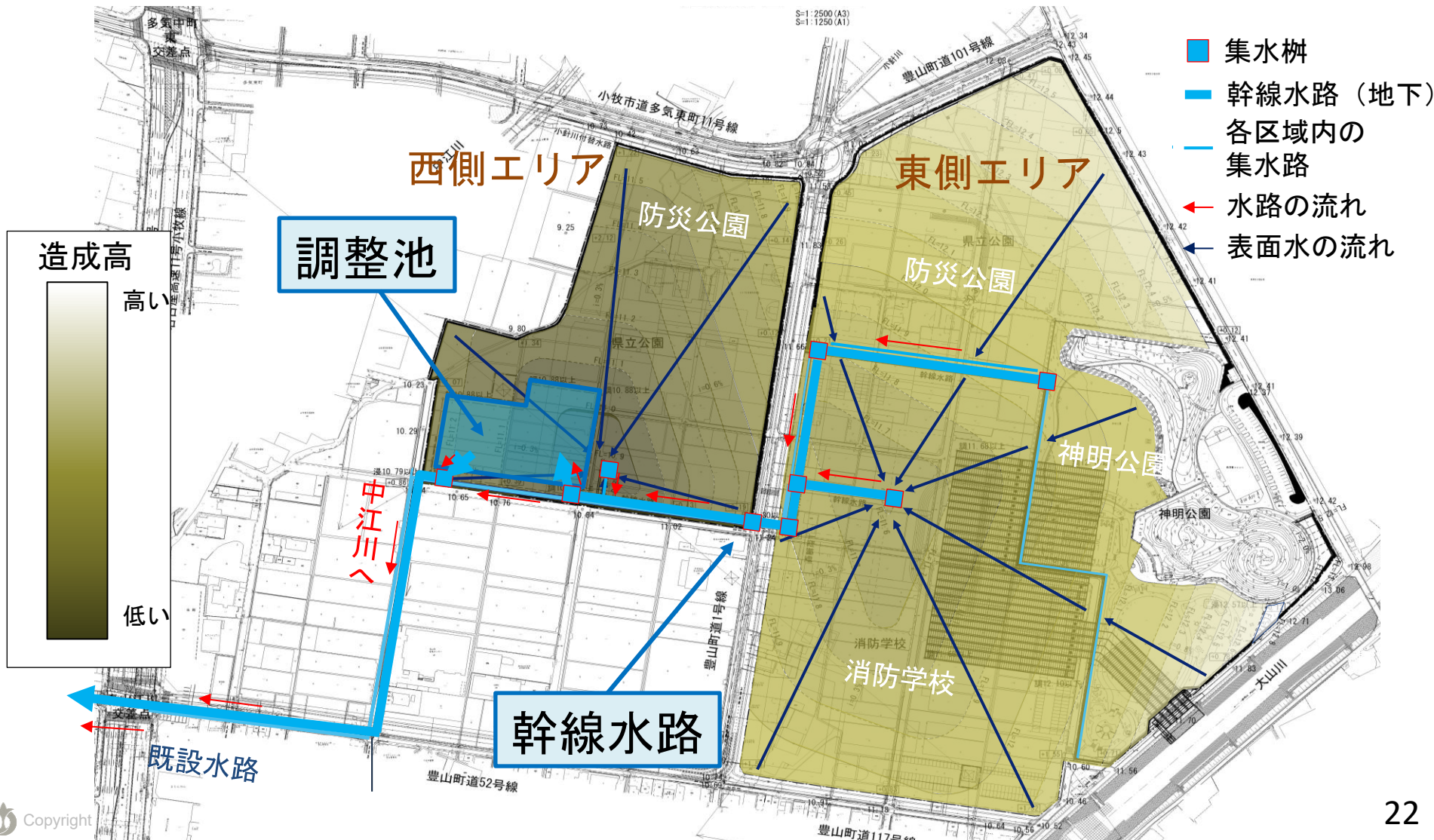
- 事業用地について、年3回の草刈りを実施。
- 今年度は5月、9月、11月頃に施工。

清掃活動

- 県防災拠点推進室の職員が事業用地周辺の清掃活動を実施。
- 1ヶ月に2回程度、ポイ捨てされたゴミ等の回収。

工事の進捗状況について

- ・すり鉢状に造成を行い、敷地内の雨水を極力、敷地外に出さない
- ・雨水を幹線水路に集め、調整池で貯留した上で中江川に放流



工事の進捗状況について

2025年8月 調整池本体ブロック設置中



2025年9月 調整池本体ブロック設置中



2025年10月 調整池本体完成、埋戻し開始



2025年12月 調整池埋戻し状況



工事の進捗状況について

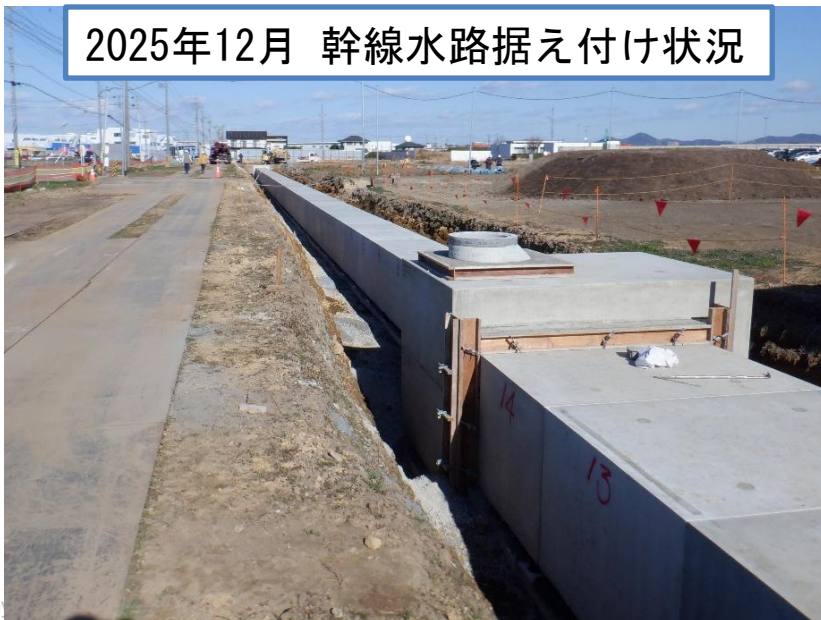
2025年7月 幹線水路据え付け状況



2026年3月 造成工事実施状況



2025年12月 幹線水路据え付け状況



2026年3月 造成工事実施状況



神明公園の一部閉鎖について(予定)

- ・神明公園の工事のため2026年秋ごろから公園の一部を閉鎖する予定です

【閉鎖期間・区域】

 既存閉鎖エリア

 新規閉鎖エリア

※閉鎖期間は2029年まで(予定)
詳細な範囲・時期は決定次第
ご案内いたします

新しい公園に生まれ変わるための工事が始まります。ご迷惑をおかけしますが、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます



航空館boon、遊具広場、南北の築山、バラ園は引き続きご利用いただけます

南側から公園への歩行者動線はできる限り確保します。

工事現場周辺における安全対策等

広報掲示板



仮設照明



ステッカー



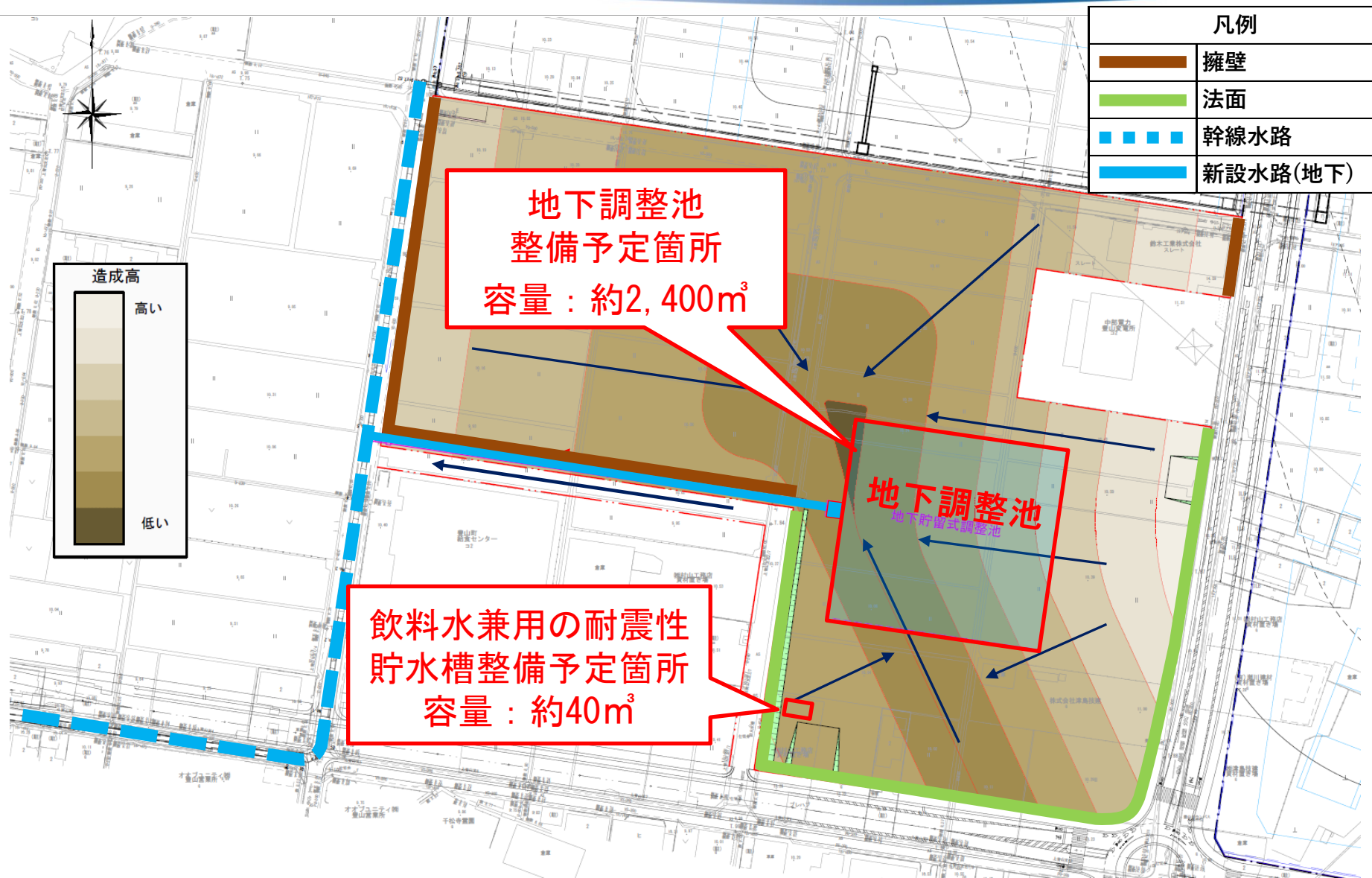
定例会



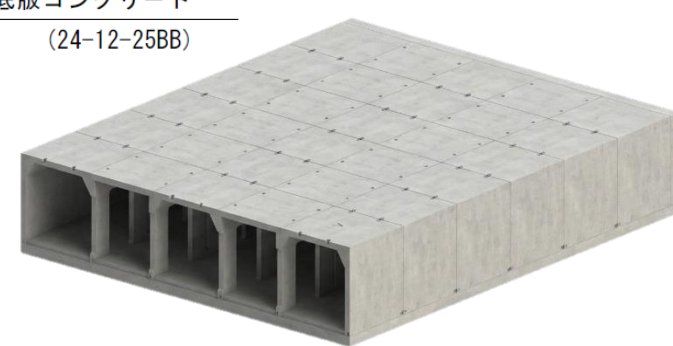
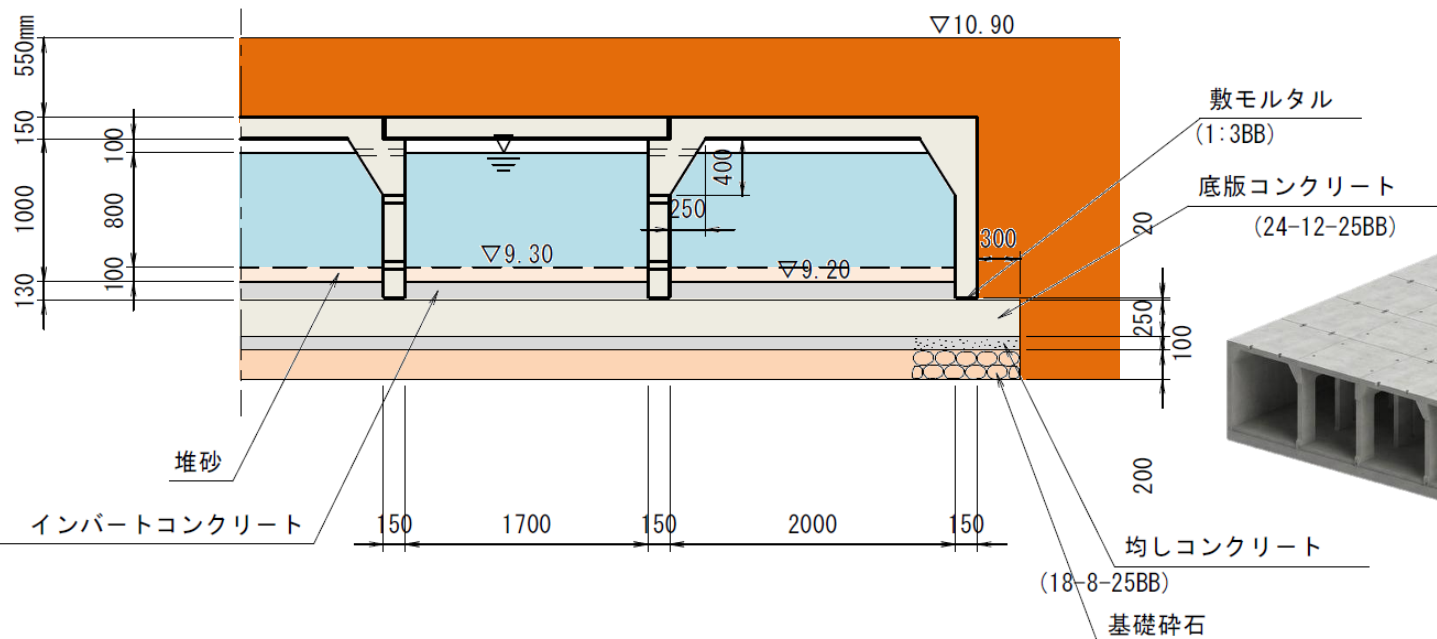
2 豊山町臨空第2公園事業の 進捗状況について

(豊山町産業建設部防災拠点推進室)

工事の進捗状況について



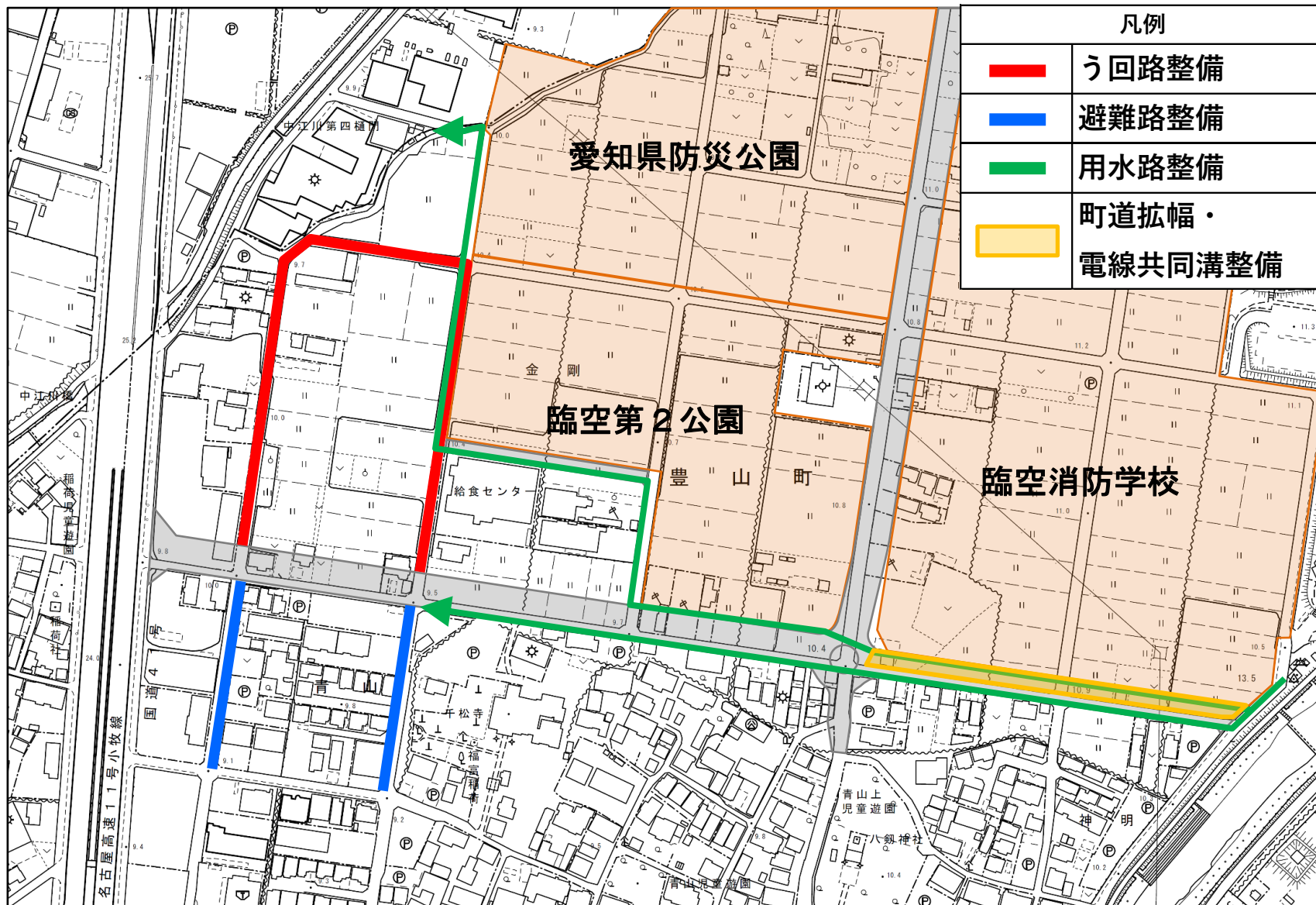
地下調整池



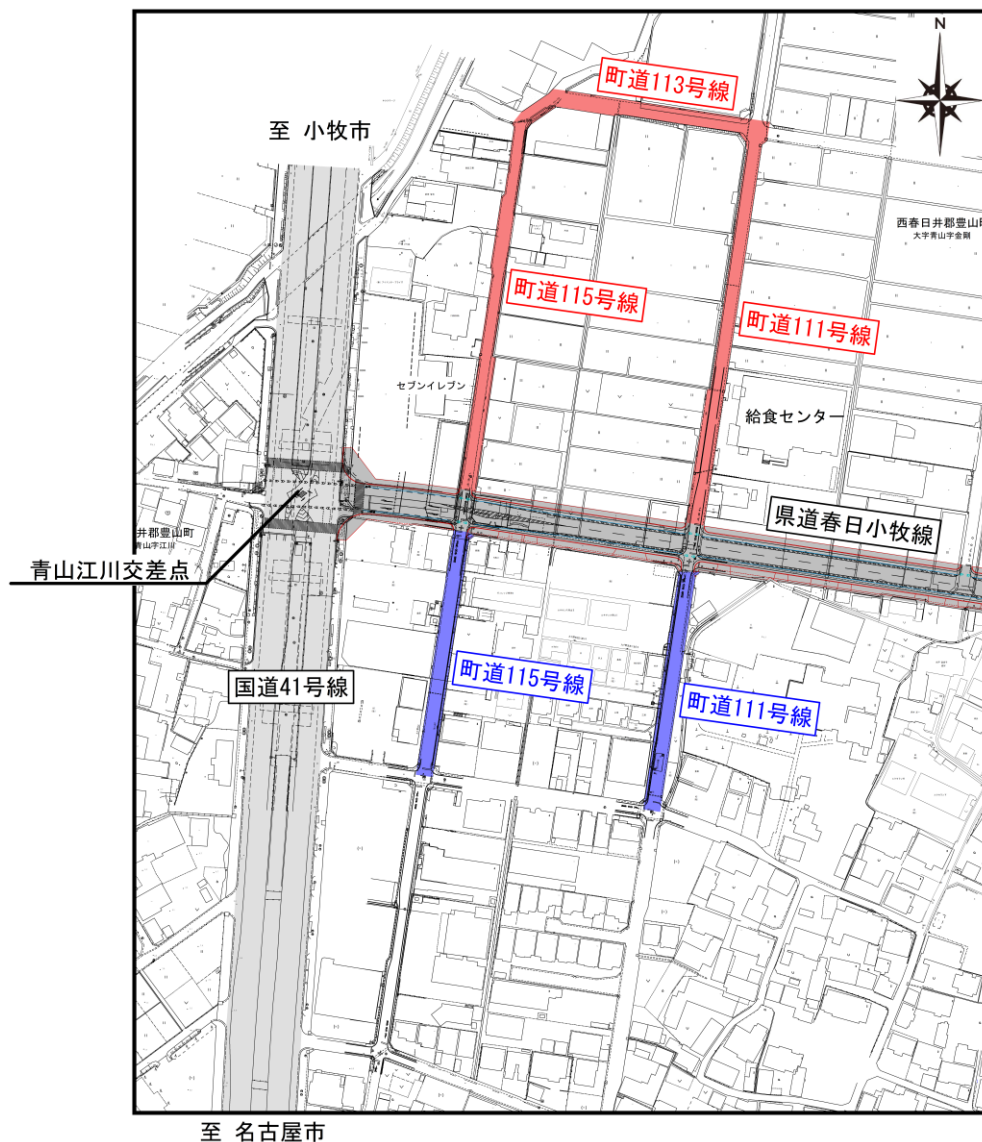
地下調整池



周辺道路等の整備について



う回路整備・避難路整備計画概要



県道北側（赤色の区間）

町道111号線・113号線・115号線



未舗装部の道路拡幅による
道路整備

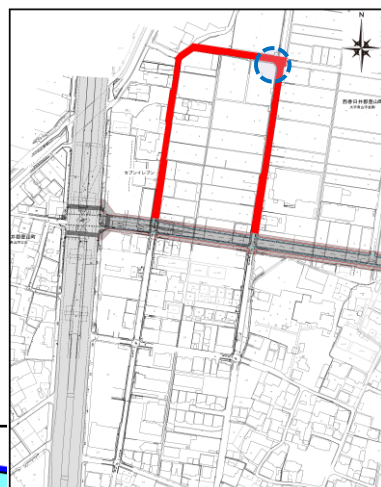
県道南側（青色の区間）

町道111号線・115号線






開水路の蓋掛けによる
歩道整備

う回路整備

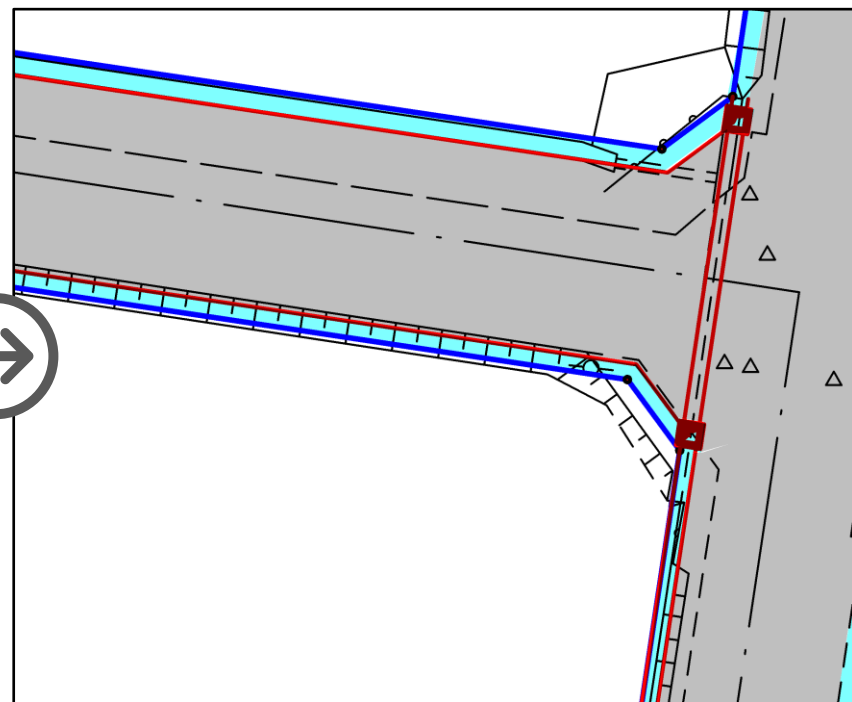
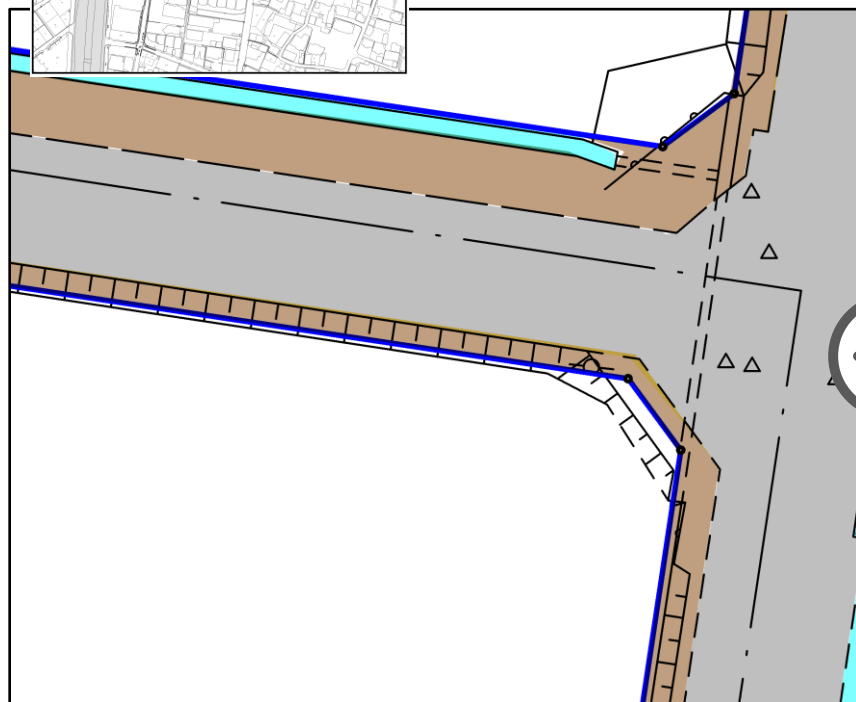


【整備前】

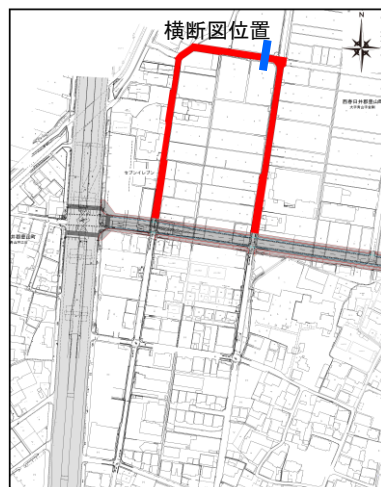
道路部	
水路部	
未舗装部	

【整備後】

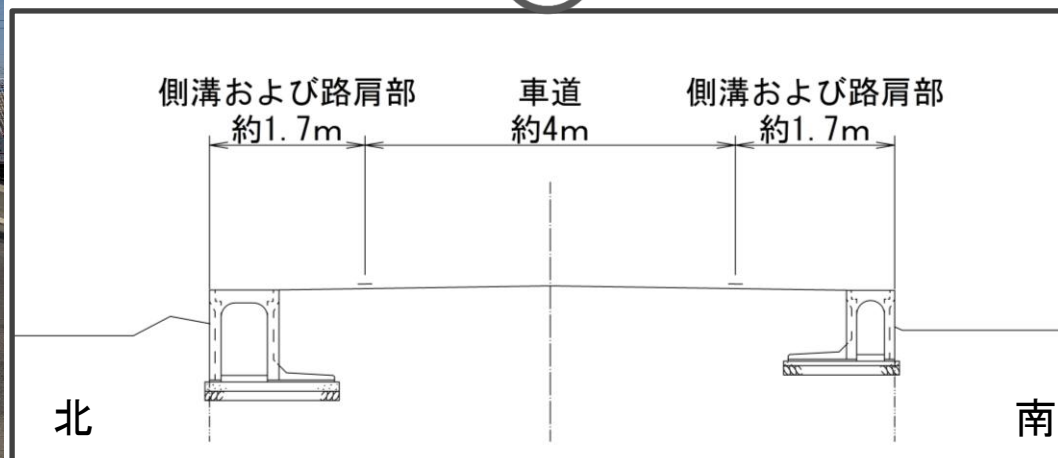
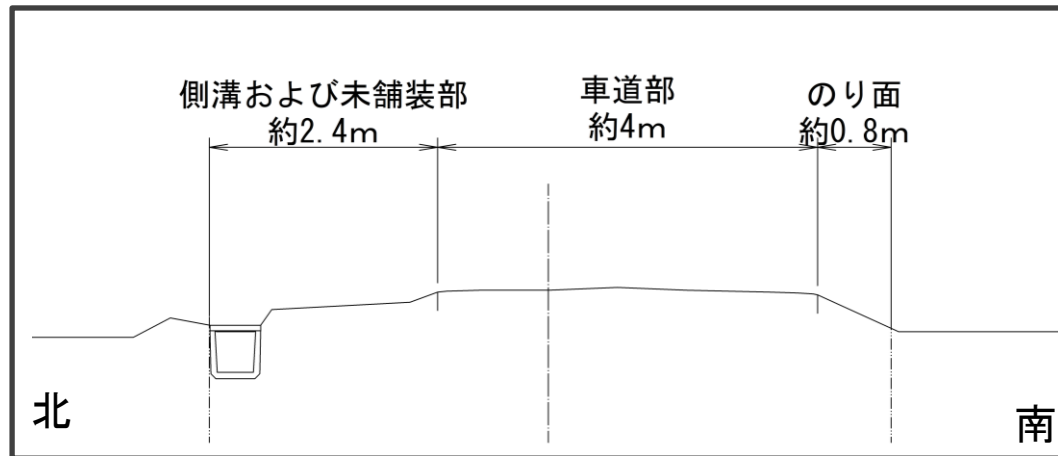
道路部	
水路部	



う回路整備



横断図（西側から東側を望む）



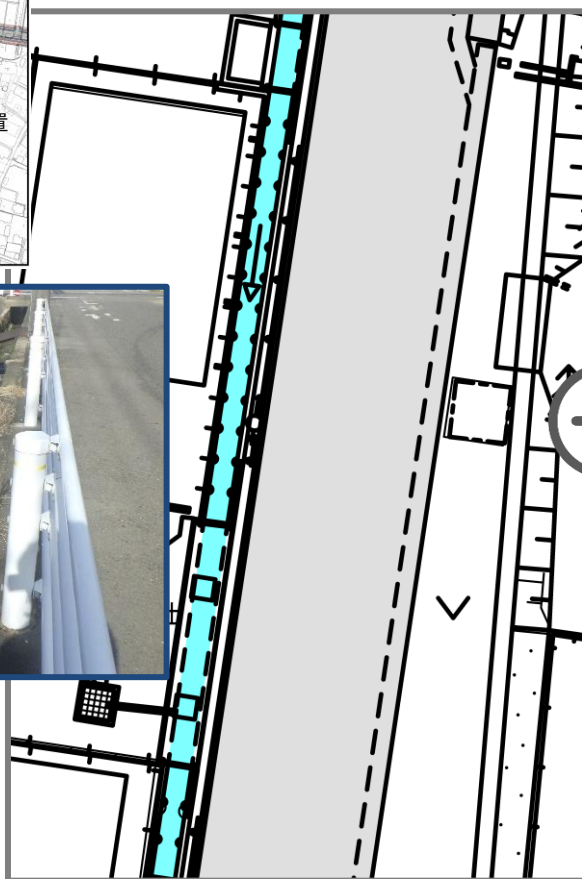
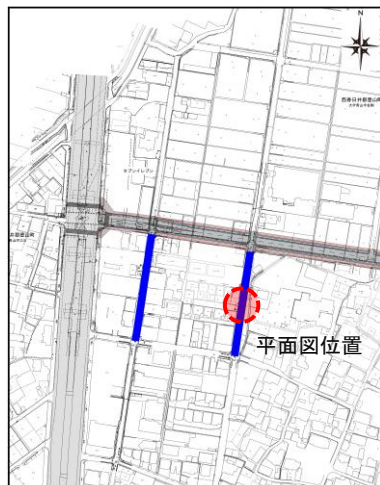
避難路整備

【整備前】

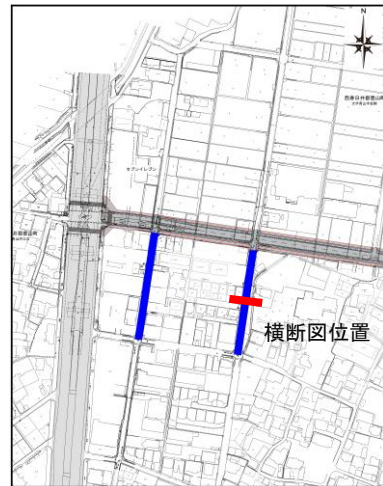
車道部 
水路部 

【整備後】

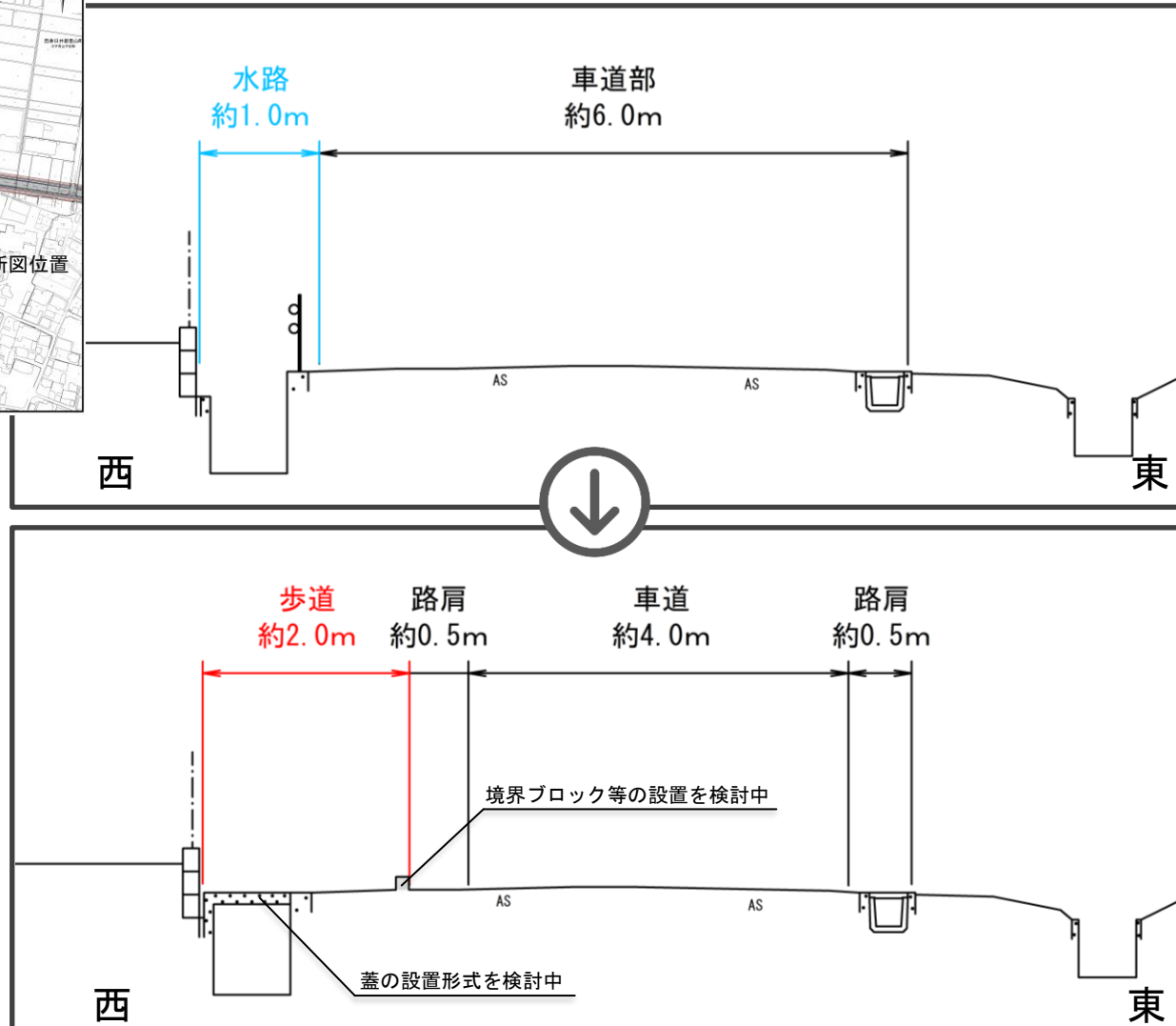
車道部 
歩道部 



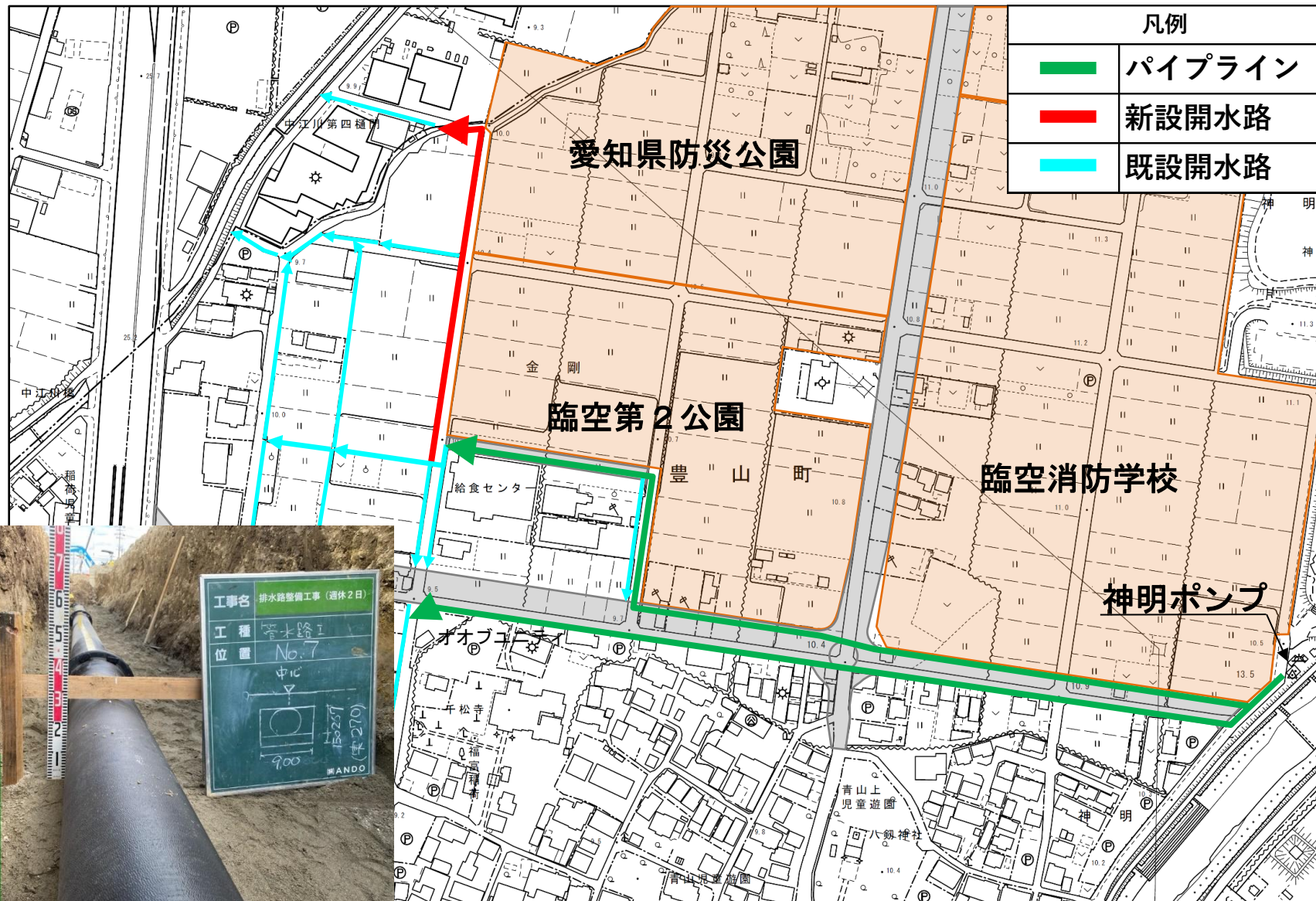
避難路整備



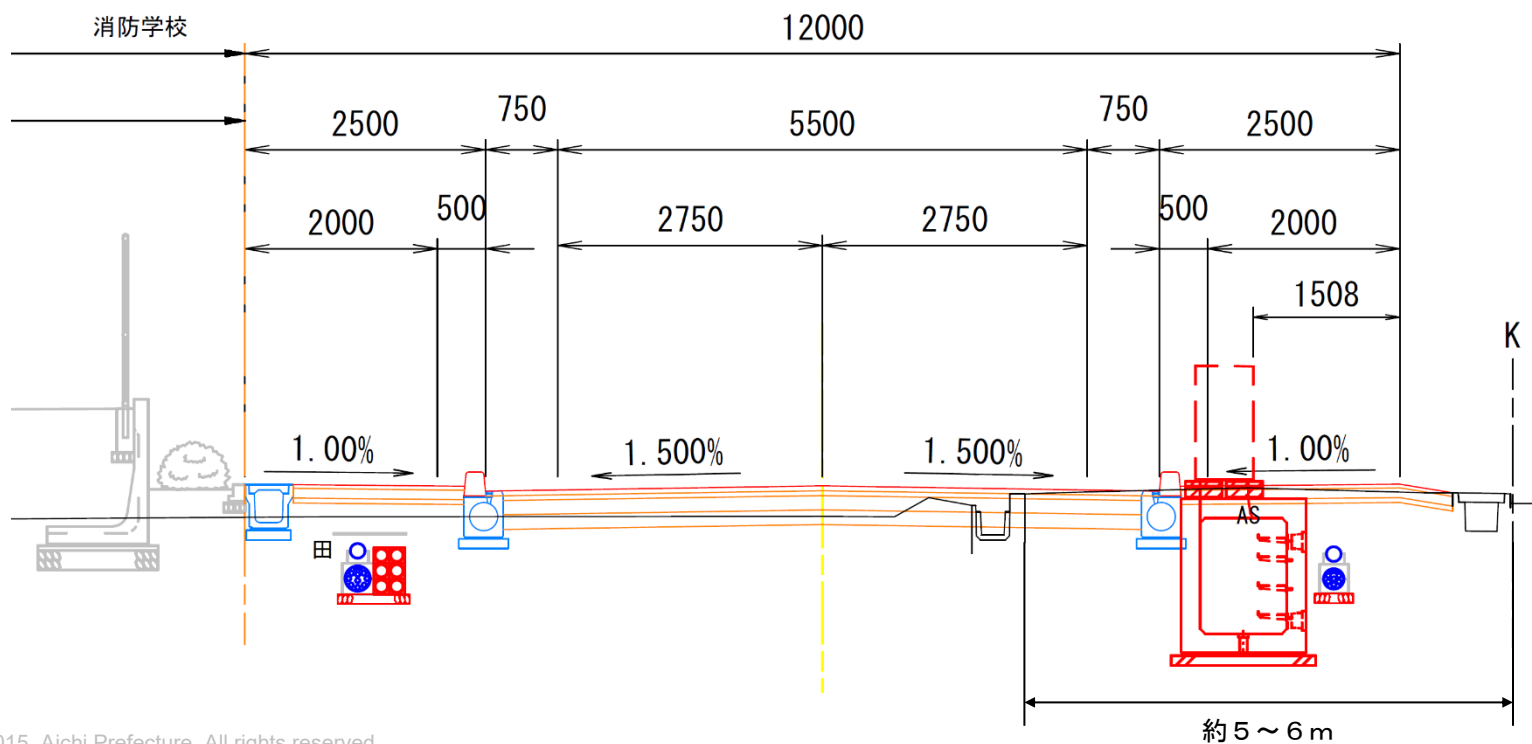
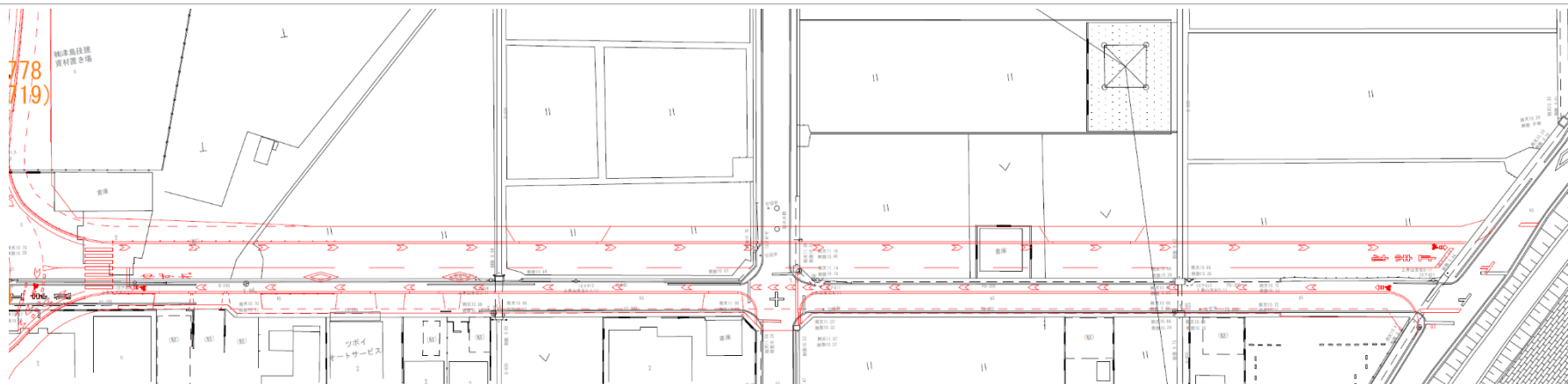
横断面図（南側から北側を望む）



用水路整備



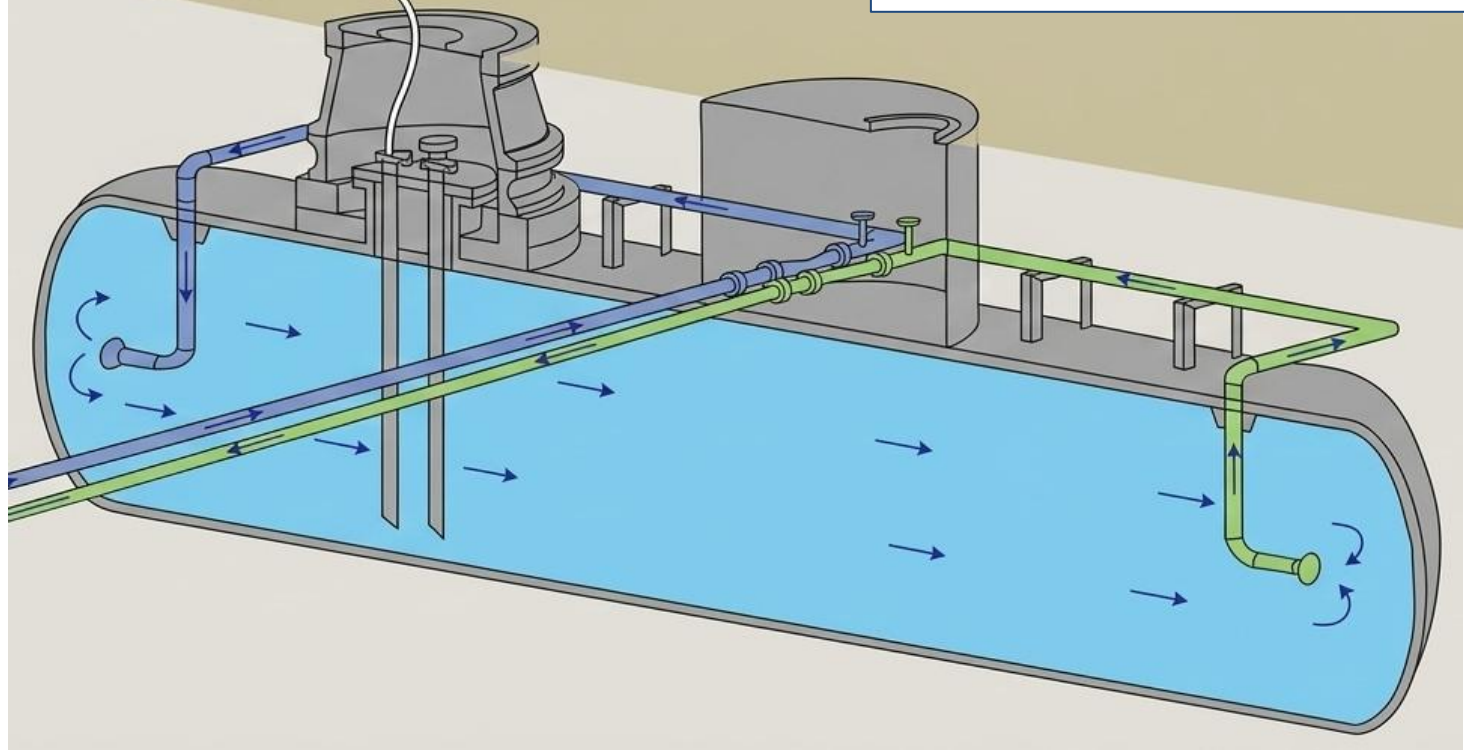
道路拡幅・電線共同溝整備








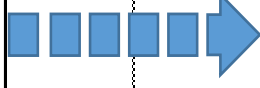
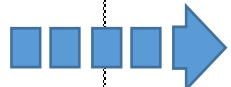
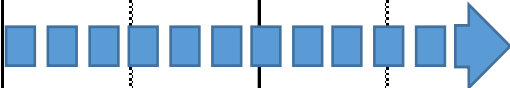
飲料水兼用耐震性貯水槽



災害時に断水となる場合を想定し、耐震性の貯水槽を地下に整備することにより、避難者及び周辺住民のための飲料水を3日分確保します
貯水容量：40m³
(40,000リットル)



整備のスケジュール

内容	2025年度	2026年度	2027年度	2028年度	2029年度
埋蔵文化財調査					
造成工事					
地下調整池工事					
耐震性貯水槽工事					
周辺道路等工事					
公園設計					
公園工事					

質疑応答